

## クラシック・コンサート等におけるオンライン視聴システムの導入【一考察】

2020. 6. 20.

一般社団法人 東京社会人音楽協会

住田守弘（文責）



Berliner Ensemble より

「新しい生活様式」におけるコンサートでは、ホールの定員を恒常的に減らすなどの処置が必要であり、ホールでの減収分をオンライン視聴で補わないと、大半の楽団が立ち行かなくなると思います。

幸いにしてワクチン開発などにより感染リスクが軽減され、定員増が可能となればそれはそれで良しですが、この1年～2年は厳しい状況が続くと考えた方が良いでしょう。

言ってみれば、ホールで生の演奏を聴くのは贅沢な楽しみになり、安価なオンライン視聴との二極化が進みます。これがコロナ制圧後にも不可逆的な変化となる可能性もあり、ホール側もゆったりとしたシートを導入などで座席の単価を上げる必要が出てくるかもしれません。

もちろん、演奏する側も「新しい生活様式」に則って対策が必要です。ただ、聴衆と違って管理可能な集団ですので、ここではいったん対策が取れるとしておきます。

（演奏すらできないのでは、採算性を考える意味も無いので）

別表は、在京の某有名交響楽団が、これも有名な収容 2000 人規模のホールで定期演奏会を開催する場合の収入額を予測したもので、1 公演で約 1000 万円です。(年間会員が 100%を占めると仮定し、付帯的な CD・グッズの売り上げは無視)

### 2000席の音楽ホール売り上げ試算

- ①ホール内の座席数は最も悲観的に見てこれまでの1/4になるとする (桂馬飛び配置)
- ②ホールのチケットはすべて2倍の額で発売する
- ③不足となる金額を1枚500円のオンライン視聴チケットを発売して補う

		これまでの公演 (例)			これからの公演 (イメージ)		
		席単価(¥)	枚数	売上(¥)	席単価(¥)	枚数	売上(¥)
ホール	S席	5,500	1110	6,105,000	11,000	277	3,047,000
	A席	4,900	390	1,911,000	9,800	98	960,400
	B席	4,200	280	1,176,000	8,400	70	588,000
	C席	3,300	220	726,000	6,600	55	363,000
ホール・チケット計			2000	9,918,000		500	4,958,400
オンライン・チケット					500	9,920	4,960,000
総合計				9,918,000			9,918,400

「新しい生活様式」で仮に入場定員が 1/4 の 500 人に制限され、その対応としてホールの入場料を倍の値段にしたと仮定しました。当然、入場料収入はこれまでの半分の 500 万円ほどになりますので、残りの 500 万円は 1 名 500 円のオンライン視聴チケットを 1 万枚販売すれば補填できます。

1 公演で 1 万人のオンライン視聴者を獲得することは、それほど難しいことではありません。47 都道府県で平均すれば 210 人ですから、各県で聴いてくれる中学校を 1 校獲得すれば良いことになります。

ただ、オンライン視聴者を獲得する競争は他の業界 (教育等) や同業者 (エンターテイメント) の参入で激化が予想されますので、対策を迅速に行い、視聴者を囲い込む必要が大です。

主催者・ホールで必要な準備は以下のもの

- 動画収録およびオンライン送信システム (クオリティにもよるが 1 公演 100 万円ほどか)
- 課金・認証システム
- 視聴開始時刻通知、時差再生機能などの追加的便利機能

家庭側では

- パソコン、タブレット、スマートフォン あるいはネットに接続できるテレビ
- 高速インターネット回線
- 性能の良いスピーカーかヘッドフォン

いずれにしても、既存のシステムを上手に活用すれば、それほど大掛かりなものにはならないと思われるので、ホールと協力して早急に恒久対策を進めることが重要になってきます。

以上